


未来に課題を残さない 宮津市新庁舎案



2グループ

堀、神近、上口、東山、中島、小西



▶ 目次

- ▶ 現庁舎のメリット・デメリット
- ▶ 新庁舎案
- ▶ 新設災害対策本部に関する案
- ▶ まとめ
- ▶ 参考文献



▶ 現庁舎のメリット

▶ 立地の良さ

- ・ 宮津市の中心部に位置する→市民が利用しやすい
- ・ 災害時、情報収集がしやすく災害対策本部を設置しやすい

▶ 建物自体の価値

- ・ 有名な建築家の建築物



▶ 現庁舎のデメリット

- ▶ バリアフリー問題(トイレ・エレベーター)
- ▶ 庁舎の耐震問題
- ▶ 庁舎が大手川に近い問題
- ▶ 庁舎内の老朽化問題

以上のメリット・デメリットより.....

新築で建て替えるのが最善

現庁舎の場所に新築建替えとなると、

大手川が近いというデメリットがある。

⇒災害時の対策本部としては危険ではないか？

⇒災害時には対策本部を別の場所に設ける



結論：本庁舎は最低限の耐震性を備えて建て替え、
またDX化を中期的に導入、
災害時には対策本部を「空いている公共施設」を利用する

▶ 新庁舎案①庁舎内について

- 清潔感があり、だれもが訪れやすい雰囲気由市役所に
 - ・ 食堂は一階に設置、市民利用をしやすい
 - ・ だれでも利用可能なコミュニティスペースの設置
 - ・ 窓口はすべてローカウンター化
 - ・ 市民利用の多い窓口は1階、少ない窓口は2階へ

▶新庁舎案①庁舎内について

- 庁舎内のバリアフリー化
 - ・ バリアフリーストイレの設置
 - ・ スロープ、手すり、点字、エレベーターの設置
 - ・ エントランスにわかりやすい総合案内、もしくは総合案内係の配置
 - ・ キッズコーナーや授乳室の整備
 - ・ 庁舎外に、いつでも公的書類を出力できる機械を設置
(ミップルの中など)

新庁舎案②現庁舎の活用案

- 有名な建築家の建築物→解体はもったいない
 - ・ 資料保管庫
 - ・ 宿泊可能な実習・合宿施設として活用(マリーンピア)
→収入は災害拠点の維持費や設備投資に使用
 - ・ 会議室再整備後、市民へ開放
 - ・ 防災に関する市の関係課・係を配属

新設災害対策本部に関する案

■ 災害対策本部にどのような機能が欲しいか？

- ・ 停電や電力・水道供給が途絶えても機能すること。
→ 病院などの体制を方法を参考に考える
- ・ 避難者のための食料や必要な物資の備蓄設備
- ・ 対策本部要員が泊まり込みに対応できる設備
→ 冷蔵庫・お風呂・寝床・炊事場など最低限の確保
- ・ インターネット等の設備
→ 災害時すべての情報がココに集約されるため、管理できる設備を整える。

新設災害対策本部に関する案

- ➡ 災害対策本部として「空いてる公共施設」の活用を提案

【現在空いている施設】

- ・ 上宮津小学校、宮津会館

→本部として集まりやすい場所

土砂災害や津波、洪水の危険度が低い場所

→海から少し離れ、少し高い場所にあり、市街地からそう遠くない場所

= 上宮津小学校？

※ただし、上宮津小学校は上宮津公民館の移転事業が予定されているため、その点の協議を重ねる必要あり

◆ 上宮津小学校の公民館移転事業についての資料

令和4年9月定例会

令和4年度9月補正予算 事業等説明資料【一般会計(第4号)】

(単位:千円)

事業名	上宮津地区公民館の移転整備 (公民館整備事業)	充実	補正予算額	財 源 内 訳				
				国庫支出金	府支出金	市 債	その他	一般財源
背景・経緯	施設の老朽化により、大規模改修または耐震工事が必要となっている上宮津地区公民館について、旧上宮津小学校を利活用し、移転整備するもの。 R2年9月 「宮津市公共施設再編方針書」により上宮津地区公民館の移転決定 R3年2月 上宮津地区公民館移転検討委員会の同意を得る R4年5月～ 地元検討委員会と実施設計に向けた施設内容の協議		8,000			8,000		0
			(参考)補正後予算額	特定財源の内訳				
			19,000	市債	過疎対策事業債		8,000	
補正理由 及び 目的・目標	上宮津地区公民館を旧上宮津小学校校舎に移転整備し、生涯学習及び住民活動の基盤整備を行うことにより、多様な学習機会を創出し、生涯にわたりいきいきと学び続けられるまちづくりを目指すとともに、地域コミュニティの活性化を図る。		(参考)前年度決算額					
			—					
事業概要	■上宮津地区公民館移転に係る実施設計 8,000千円 旧上宮津小学校校舎の一部を上宮津地区公民館(地区連絡所機能を含む。)に改修整備するための実施設計 ○整備内容(予定) 大会議室、調理実習室、和室、トイレ洋式化、身障者用トイレ、地区連絡所ほか		総計重点プロジェクト	—				
			テーマ別戦略	ふるさとを大切に学びを深めるまちづくり				
			施策分野	社会教育				
			【宮津市総合計画以外の計画】					
			R3	宮津市教育大綱・教育振興基本計画			R3～R7	
			期待される効果等					
			<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の生涯学習の意欲の向上 ・地域コミュニティの活性化 ・公共施設マネジメントの推進 遊休施設(廃校舎)を活用した公共施設の再編 					
担当部署	教育委員会事務局社会教育課 社会教育係			45-1642		8		



新設災害対策本部に関する案

➡ 【上宮津小学校について考察】

※上宮津小学校は土砂災害の点で懸念があるが、洪水津波といった点からは危険度は低いと考えられる。

⇒小学校周辺の土砂災害リスクの把握、それに対する対策・整備が必要。

➡ 「空いてる公共施設」は、災害時以外の普段はどのように活用するか。

◎拠点を別に設ける＝維持費がかかる

- ・拠点・施設を使って収入を得る使い方もあり。
- ・収入は災害拠点の維持費や設備に使用。

新設災害対策本部に関する案

▶ 「空いてる公共施設」は、災害時以外の普段はどのように活用するか？

※普段は公民館として利用されるが、そのほかの利用方法

①宿泊可能な実習施設・研修・クラブ活動の合宿施設として活用

先行事例：田井にあるマリンピアのようなイメージ

⇒これの山バージョンの施設のイメージ

②会議室などを整備し、現在、ミップルのコミュニティルームの貸出のように活用する

⇒但しミップルよりも駅から遠くなるため、日頃の会議や市民のサークルなどといった活用は見込めない可能性がある

③スポーツや絵本の読み聞かせ、はまなす文庫（移動図書館車）の立ち寄り場所にする

⇒子供たちからお年寄りまでの憩いの場にすることで、普段から災害対策本部の位置の場所を市民に持ってもらう。

④防災に関する市の関係課・係を拠点に持つてくる

⇒但し、そうすることで不都合、不便にならないかなどあらゆる観点から考察が必要

新設災害対策本部に関する案

【留意点】

- ・ 長期的に見ると有事に備えて維持費がかかる。
- ・ 定期的な点検や必要な環境整備は適宜行なっていく必要がある。
- ・ 空いている公共施設に学校を上げる利点として、学校にはもともと調理室やトイレといった水回りの設備（上下水道）があることから、整備もしやすいのでは？という点。

=新たに上下水道を引くといった改修等の費用が抑えられる？

※常時の活用について

現在、防災関係の係は宮津消防署の2階に設置されていて、連携が密にとれるという観点から、わざわざ別の拠点に移す必要もない。

対策本部となる場所にある方がいいのか、消防と連携がとりやすいところにある方がいいのかを考える必要がある。

まとめ

- 現庁舎は建て替え。
- 最低限の耐震性を備え、住民の利用しやすい市役所へ。
- 現庁舎は普段は使用しない資料保管庫や、耐震工事を行ったのち市民の利用できる公共施設化する
- 災害対策本部は災害の被害を受けにくく、かつ市民の利用しやすい場所への移築⇒上宮津小学校の利用を提案
- 「空いている公共施設」に防災機能を持たせ、かつ平常時は他の用途を持たせて市民向けに開放→維持費を賄える

参考文献

- ▶ 宮津市ホームページ「以下ハザードマップ等 - 防災・減災」
city.miyazu.kyoto.jp (2022年9月19日閲覧)

上宮津小学校周辺の情報

- ▶ 01宮津地区 (city.miyazu.kyoto.jp)
- ▶ 大手川洪水ハザードマップ(city.miyazu.kyoto.jp)
- ▶ sinsuisoutei_part7.pdf (pref.kyoto.jp)
- ▶ 宮津市「令和4年度宮津市9月補正予算(案)の概要」
<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/uploaded/attachment/7665.pdf>